教育情報化教材論A

学籍番号　A201412　氏名　佐々木悠稀

自分が定義したeラーニングに必要な評価

私はeラーニングに関して「インターネットを用いた学習など、遠隔での学習方法であり、その特性上学習者の学習する時間や場所を選ばない学習方法である」と定義した。  
(補足するとなぜインターネットのみに限定しなかったというと例えばCDを用いた語学学習システムも私は時間や場所を選ばないという点からeラーニングであると考えているからである。従来の特定の場所に特定の時間に集まり、先生対生徒という学習形態から逸脱した学習であると考える。)

このように定義したため遠隔での利用を前提に必要な評価を考えていきたい。

基本的に学習する内容の内一定の範囲を遠隔また録画された授業や教材等で学習しその効果を測定し評価するという流れになると私は考える。

では、どのようにして効果を測定していくのか検討していきたい。

まず授業評価に関して考えると一番有効なのはやはり学習者がしっかりと教材を用いて学習しているのかを把握するということだと思う。そのために、授業を視聴した履歴や、出席を学習者に入力させるなど様々なものが考えられるであろう。

次に成績評価に関して考えると、一番最初に思いつくのはやはり「テスト」(ここでは一般にペーパーテストを考える)であると私は考える。だがテストには様々なルールが必要になってくる。ルールが無かったり、また学習者がルールをも守らないという事態になると公平性の観点から良いとは言えないだろう。

誰もが同じ条件になるためにもテストを用いて成績評価を行う際にはルールを作成し、またそのルールを守ってテストを受けているのか把握する必要があると考える。

成績評価はテスト以外にも評価する方法はある。例えば英会話のeラーニングであれば一定の範囲を用いた日常会話を外国人教員等と一対一で、かつオンライン上で話すなどで効果の測定が行えると考える。だがこれに関してはどのような学習内容なのかによって様々であり、何か学習した内容によって提出物を作成する等いろいろなものが考えられる。

考えていることと類似の事例

今回eラーニングを用いて大学生を対象に語学学習を行っている研究事例を調べた。

「e-learning英語教育の学習効果に関する研究 : 学 習者の自律学習へ向けた教師の役割」

著者　太田かおり

https://kiu.repo.nii.ac.jp/?action=repository\_action\_common\_download&item\_id=278&item\_no=1&attribute\_id=18&file\_no=1